【のもと　ひさえ　さん】 住吉

●アイヌ語ペンクラブ会長やイオマンテの会の会長、千歳アイヌ文化伝承保存会の副会長を務め、アイヌの伝統儀式や儀礼を復活して、伝承や保存活動を行っている。

※写真は、9月16日に開催されたインディアン水車まつりの会場で、アイヌ民族に伝わる楽器「ムックリ」を奏でているようすです。

アイヌ文化に触れてみませんか

人のいる風景
SCENERY OF PEOPLE

野本久栄さん
HISAE NOMOTO

千歳川にサケが遡上する季節を迎え、アイヌ民族の新しいサケを迎える儀式「アシリチェプノミ」が、9月2日に厳粛な雰囲気の中で執り行われました。

野本さんは、今年で第21回目になる儀式の祭司を第1回目から務めています。

「アシリチェプノミは、札幌では昭和56年に復活しましたが、千歳では行われていませんでした。なんとかできないものか、千歳には昔のことを知っているエカシ（長老）がおられるので聞けばなんとかなる、札幌でやっているのなら千歳でもできると思い、一念発起してはじめました」といいます。

祭司は、儀式の道具づくりから進行までを司るので、自分で調べてアイヌ語の勉強や道具を製作したほか、9年間、毎月、札幌の大学教授のもとに通って、儀式の進行などを学んだそうです。「今でも儀式が終わるまでは緊張の連続です」と話します。

サケを捕獲するときに使うチプ（丸木舟）は、カツラの木を削った手づくりのもので、儀式で使うのは、千歳だけとのことです。

平成8年に末広小にアイヌの伝統民家であるチセが完成し、アシリチセノミ（新築祝）の儀式を行うとき、尊敬するエカシが来てくれて、「なつかしいにおいだ」と言われたときは、「自分のことが認めてもらえたと思い、うれしかった」とふり返ります。

野本さんは、市内はもとより、全国の小中学校に出向いて、アイヌ文化に触れる集いを開催しています。

末広小の子供たちには、アイヌのウポポ（座り歌）やホリッパ（輪踊り）、サケの捕獲や解体、ムックリ（楽器）の製作などを教えています。子供たちは素直で話をよく聞いてくれるといいます。

「学校の先生には、アイヌ文化に興味をもってほしい」、「若いアイヌの人たちには、アイヌ文化に目覚めてほしい」と話します。

「千歳には、古くからアイヌ民族が暮らしています。国の無形文化財に指定されているアイヌの踊りや道具作りなど、アイヌ文化をもっと知ってください」と語ってくれました。